

今年のノーベル平和賞受賞者に、リベリアの大統領ら3人の女性が選ばれた。地域の紛争解決や人権改善につくした功績からだ。

それをきいて、私の知る日本人女性にも平和賞をあげたくなった。

1人目は、緊急人道NGO「JEN」事務局長の木山啓子さん。

旧ユーゴ紛争を皮切りにスリランカやハイチなどの人道支援に取り組んできた。「支援の狙いは相手に自立してもらうこと」が口癖。途上国の漁民には漁網を贈るのではなく、漁網を作ってもらおう。手に技をつけることが大事だと考えるからだ。

2人目は、NPO日本紛争予防センター事務局長の瀬谷ルミ子さん。

アフリカを中心に紛争地での平和構築にたずさわっている。

高校3年生の時、内戦中のルワンダで、コレラにかかった母親の脇で泣きじゃくる子どもの写真を見たのが、この道に入るきっかけだ（「職業は武装解除」朝日新聞出版）。

3人目は、政府の地方復興チーム（PRT）の一員としてアフガニスタンで活動した今井千尋さん。危険な地域でリトアニア軍と行動を共にしながら、学校建設を手助けた。紛争地ではたらく日本赤十字社の看護師の皆さんにも頭が下がる。

驚くほど多くの日本人女性が、紛争解決や平和のために奮闘していることを知ってほしい。〈協阪紀行〉